

写真中央の豊洲地区（豊洲五丁目の一部と六丁目全域）
が海の風と水域に囲まれた緑あふれるエコアイランドに



第6回
江東区

豊洲グリーン・エコアイランド構想

～自然の力(水・緑・光・風)を生かした環境最先端拠点としての取組～

江東区では現在、環境に配慮した「豊洲グリーン・エコアイランド構想」に取り組んでおり、豊洲五丁目の一部と六丁目（以下「豊洲地区」）を中心に、新たなまちづくりを行っています。

豊洲地区は築地市場の移転が決まり注目が集まる中、
環境最先端拠点として官と民が連携・協働し、エコアイランドを実現しようとしています。

自然に恵まれた地域

江東区では、今後築地市場が豊洲へ移転すると同時に、豊洲地区を中心に民間事業者による大規模な開発などが予定されており、新たなまちづくりが進んでいます。こうした中、区では、区民の環境意識の高まりや環境施策への取組の社会的要請、災害への対応の必要性から、官民が連携・協働して、環境に最大限配慮したまちづくりとして概ね15年後の姿を展望する「豊洲グリーン・エコアイランド構想」を平成23年6月に策定しました。

江東区には、日本最大級の焼却能力をもつ清掃工場やごみの最終処分場まできた埋立地があることなど、長年ごみ問題との関わりが深く、これまでも環境への取組に力を入れてきました。平成16年に、当時としては国内最大規模の風車(若洲風力発電施設)を設置したり、環境学習情報館「えこっくる江東」などで、さまざまな講座や催しを通して環境について学ぶ場を設けています。さらに、平成22年3月に「水と緑豊かな地球環境にやさしいまち」などを目指すべき姿とした江東区長期計画の策定や、それを環境面から支える江東区環境基本計画の策定により、地球温

暖化対策を積極的に進めてきました。

もともと工場などがあつた豊洲地区は、都心に近接しながらも、東雲運河などの水域や旧防波堤の緑など豊かな自然環境に囲まれた地域です。こうした地域特性を生かしながら環境最先端のまちづくりを目指し、土地利用の転換を行おうとしています。

新たなまちづくり

6つの視点と防災まちづくり

豊洲グリーン・エコアイランド構想は、水・緑・光・風などの自然を生かして環境を重点的に整備するといった他に類を見ない環境まちづくりです。そ

のための「6つの視点」を基本として官民が連携・協働していくと同時に、さらに平成23年に発生した東日本大震災をへて都市の防災機能の重要性が明らかになったことを受け、区民の生活の安全を確保するための防災の観点からまちづくりを実現していこうとしています。

にしゅん工している東京ガスのガスの科学館「がすてなーに」や東京電力のテプコ豊洲ビル、新豊洲CUBEなどの建物でも屋上や空地の緑化、雨水の利用などが行われています。

また、海や運河に囲まれた立地を生かす魅力ある景観をつくと同時に、水生生物が生息できる護岸にするなど環境に配慮した水辺空間の整備を行います。

豊洲地区では、全域的な土地利用転換



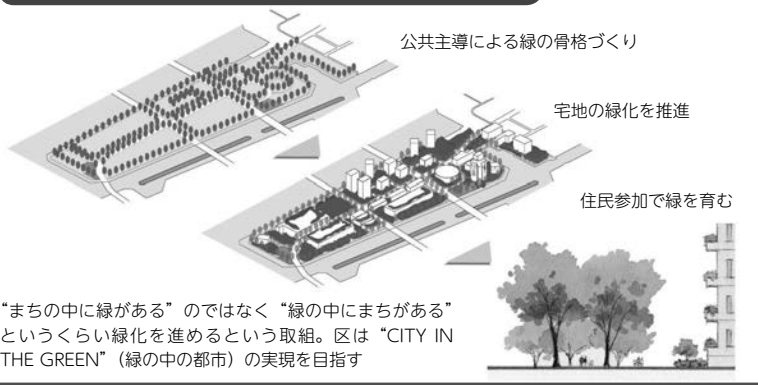
「豊洲グリーン・エコアイランド構想」を実現するための基本的視点

- 視点1 緑環境** …緑あふれ人とふれあう緑環境の実現
 - 視点2 水域環境** …水を生かし人とふれあう水域環境の実現
 - 視点3 環境技術** …環境負荷を低減する最先端技術の導入
 - 視点4 環境交通** …環境と人にやさしいエコモビリティの導入
 - 視点5 安全安心** …安全安心な暮らしを支える生活環境の実現
 - 視点6 エリアマネジメント** …環境コミュニティによる持続発展的な仕組み
- +**
- 防災** …自立できる安全なまち

構想では、「CITY IN THE GREEN」の実現を目指して地区内の公共空間の緑化を先導的に行い、緑の骨格とすることを計画しています。

具体的には、地区のまわりはぐるりと親水緑地で囲まれ、東西・南北を貫く幹線道路には街路樹が整備されるなど、すべての都道・区道で歩道緑化を行います。そのうえで、屋上緑化やビオトープの整備など区民や企業と協力して地区内の緑を持続的に発展していきます。現在です

「CITY IN THE GREEN」の実現プロセス





幹線道路に街路樹を配したり水辺空間として親水緑地を整備するなど、地区内には憩いの場が広がる(写真はイメージ)



換が行われるため、一からまちづくりができ、エネルギーを効率的に利用できるとなる仕組みも計画することが可能です。太陽エネルギーや風力・ガスなど最先端技術による取組も行われる予定です。
それ以外にも、公共交通網を充実さ

せ、自転車の共同利用(コミュニティサイクル)を推進するなど交通の側面からも低炭素化の実現を目指したり、地域が主体となった環境まちづくりのために、ワークシヨップの開催や地域エコポイント制度の導入などを検討する予定です。

また、東日本大震災の教訓を踏まえ、高潮や津波対策として防潮堤を整備したり、市場での緊急物資の受け入れ・緊急ヘリポートの整備、船舶からのエネルギー供給など豊洲地区ならではの機能を生かした整備を行う予定です。

構想は、一部の周辺地区においてまち開きが予定される平成27年度までの5年間を「始動期」、その後の平成32年度までの5年間を「概成期」、それ以降を「成熟期」とし、概ね15年後の姿を展望するものです。

構想の実現に向けて、平成24年度に「環境まちづくり協議会」を設立し、計画を具体化するために「環境ロードマップ」を作成して各施策の実施主体や時期、内容などを定めています。

環境にやさしいコミュニティサイクル

現在区では、環境にやさしく区内を気軽にまわられるコミュニティサイクルの導入を目指し、臨海部で民間企業と

の協働により実証実験を行っています。豊洲グリーン・エコアイランド構想で掲げている視点のひとつに、環境と人にやさしいエコモビリティの導入があり、コミュニティサイクルはその取組のひとつとなっています。

コミュニティサイクルとは、みんなで共同利用する自転車シェアリングの取組で、自転車を現在18か所あるステーションで借りて自由に乗ることができ、利用後は他のステーションにも返せます。ショッピングや観光に、区民だけでなく区外からの観光客にも利用されており、毎日の通勤や営業などに日常的に活用している利用者もいます。観光客からは「自転車で気持ちよく臨海副都心エリアをまわられた」という声が上がっており、実証実験としての取組だけでなく、今後も継続的に続けてほしいという要望も出ています。

実証実験は東雲・有明・青海・台場など豊洲以外の地域も含めて行われていますが、実施区域は歩道が広いため、ステーションの設置が容易で歩行スペースを邪魔しないことから、実験に適した場所であると言えます。この取組により、区内の回遊性向上によるにぎわい創出や自動車移動の減少によるCO₂の削減等が期待されています。



コミュニティサイクル実証実験の取組は区民にも好評で、実験期間終了後も存続の要望が高い

開発が進む豊洲

築地市場の移転で注目を集めている豊洲地区を含む区内南部地域は、近年整備・開発が進められ、急激に人口が増えています。この地域は都心に近く利便性のいい立地であるため人気のエリアです。また、工場、倉庫等の再編による大規模な土地利用転換など未利用地が多いこともあり、近年の著しい開発は豊洲のまちの様子を大きく変えています。

平成20年1月から平成25年1月までの5年間で区内の人口は約5万2000人増加しており、そのうちの半数が南部地域です。また、この地域は、区内の他地区と比較して0〜9歳、30〜49歳の比率が高く、子育て世帯の転入

築地市場が移転し豊洲新市場へ

昭和10年の開場以来、都民の暮らしを支えてきた築地市場は、施設の老朽化や物流形態の変化などにより、平成22年10月、東京都は築地市場の豊洲移転を進める方針を打ち出した。区としても東京都からの協議を受け、新市場整備に伴う課題への対応を求めたうえで承し、平成23年に豊洲への移転が決定した。現在、平成27年度中の市場施設のしゅん工を目指し整備が行われている。

予定地にはかつてガスの製造工場があり、製造工程で生成された有害物質による土壌及び地下水汚染が確認されたため、現在処理作業が進められている。

新市場は、市場施設以外にも“干客万来施設”として、“食”を中心としたにぎわい創出のための施設も設置される予定となっている。



来年3月に開院予定の昭和大学江東豊洲病院のイメージ図。運河に面した立地を生かし、屋上や壁面・敷地内に積極的に緑化を行い、水と緑に囲まれた“パークホスピタル”を実現する

高層マンションの建設等による開発が進む区内臨海部は近年人口が著しく増加している



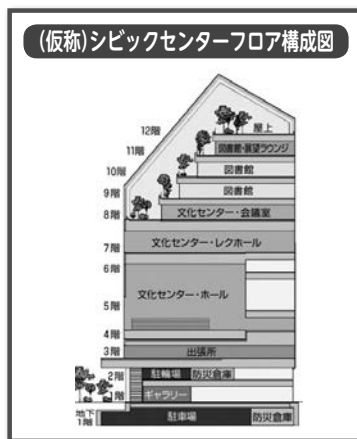
が多いという特徴がみられます。このような近年の急激な人口増加を受け、周辺地域も含めた対策が必要となっており、区ではさまざまな取組を行っています。そのうちのひとつが、豊洲地区周辺に不足している医療資源の整備です。

大学江東豊洲病院の整備を進めています。この病院は来年3月に開院予定で、区内で特に不足している女性外来や小児・周産期医療を重点化した、女性と子どもにやさしい病院”を目指しています。

また、二次救急医療機関として24時間365日の対応を行うとともに、災害拠点病院として感染症疾患等に対応するなど、急速な都市開発が進む臨海部を中心とした南部地域の医療の中核的な病院となることが期待されています。

さらに区では、現在豊洲駅前に（仮称）シビックセンターの整備を進めており、平成27年4月に開設予定です。地下1階・地上12階の建物の中には、区の出張所、300席のホールを備えた文化センター、図書館などが併設され、区民に身近なサービスを一か所で提供する複合施設として設置されます。南部地域の拠点として多くの区民が集い憩う施設として、また、災害時の備えとして新たに防災倉庫も整備されます。両施設とも環境面に配慮しており、昭和大学江東豊洲病院は運河に面した立地を生かし、屋上や壁面、敷地内に積極的に緑化を行い、水と緑に囲まれた“パークホスピタル”を実現します。

（仮称）シビックセンター内図書館の“おはなしのへや”のイメージ。区内南部地域の人口急増に対応するために、センター内には図書館・出張所の機能も備える



また、（仮称）シビックセンターは、緑の里山”をイメージしており、屋上緑化や各階に樹木を配した構造、太陽光パネルや雨水利用の機能、建物外装材の熱損失を抑える省エネルギー仕様といった、高水準の環境性能を有します。このように豊洲を中心とした新たな環境整備への取組は、まちぐるみの環境最先端の開発として、区外からも注目されています。